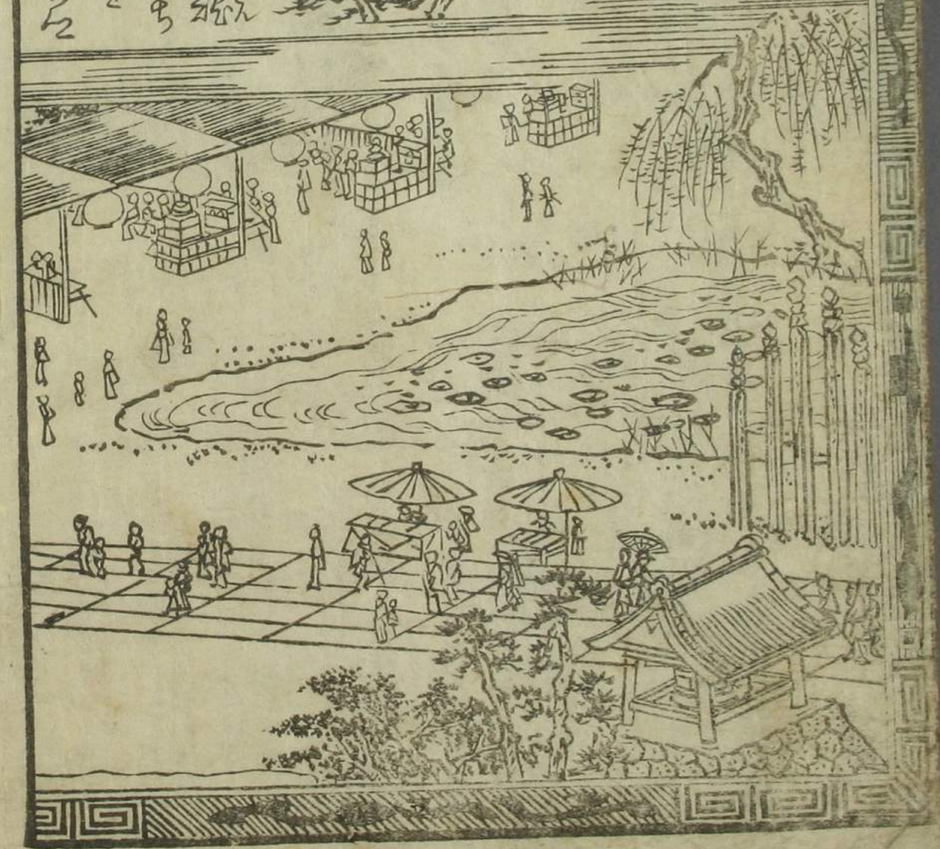
~13
2378
154

遠13特
2378
154

遠州佐久羅村永恩寺供養之圖

遠江の国笠
原の郡はあらうの池あり
男池女池と
号く女池の
ほとりに天仁
元年[illegible]
菩提の国道
あそんの妻
さてくなるあ
は池中まおちり
むなしくあり[illegible]が霊[illegible]
池[illegible]まで[illegible]
しちりて[illegible]人は害を
なすことひさしきこと



これを鎮せんひ池の上
に堂を造立あり
永長年中に号し霊
地のるよ絶[illegible]供
[illegible]を[illegible]
これより毎年秋彼
岸中まおこなを
ならうありしこそ
今八この女池なりて
永長年も退散し
[illegible]
[illegible]
男池のおこりの
[illegible]

頭心癖癖者
偶全遺感情
一心不分有
成変異冥現

都魚蛇蝦蟹年久者有於佚怪全私怨

名医録曰汾州の王氏と云者水辺ふ大なる蝦蟇の死を見て忽頭痛を呼で倒れるが病を得ること右の脇痛楚しく蝦蟇の声を聞て晋陽の趙書その脉を絶

遠邦佐久羅之女池妖怪大蝦蟇圖

聞て病を除く

蝦の所為なるべし六神丹を用て青延を地下て産ることを遠州

揚げ花蝦のこと三ぱ著を小引用して去の説とのまる

あるなり

佐久ら村男池之縁傳

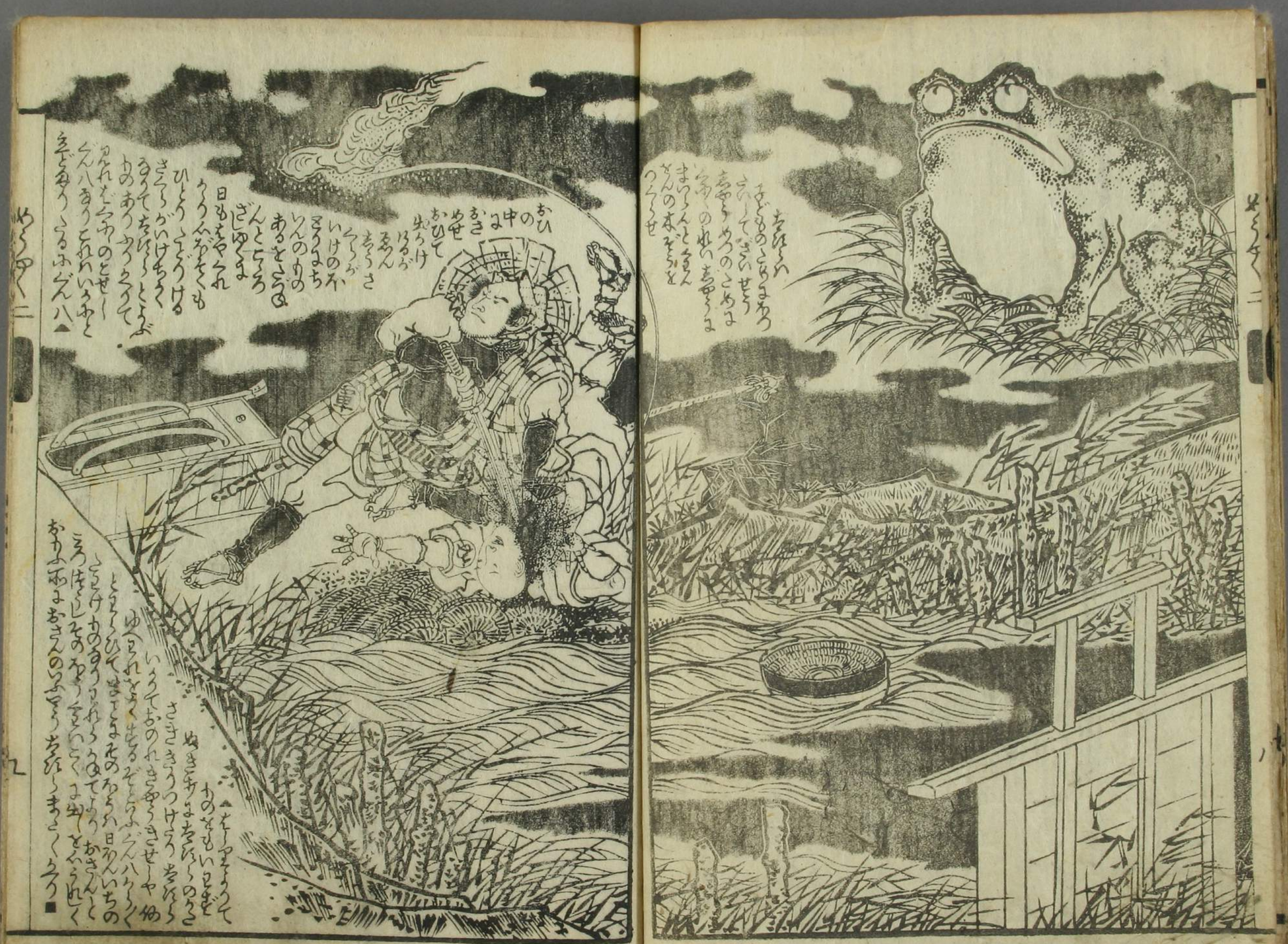
山城の国比叡山杉生村後の下野利光寺円上人と云へ
る八当代の知識にて学識無双の学者にて
ありしが佛学の淵底を極め一世の須要ハ草とある可毛
を知足しあり涼勤の中世をまちて三舎の暁を願ふ
なしきれハ人男命数かぎりある事を悲しみ
ぬ志つまとして嘉加年二月十五日此遺物佐久
ら村の男池に入寂あり是によりて今も
都に移せしハ此清水より男池の霊験ハ
又さくらが池とも呼ぶ所の所を匠に通ハしの妻
それと隔しハひし女池のそよび惜んで給ふなり
さきとて男池も[illegible]を慕ひける事今ハこの

男池のみ悪行にて尊しく女池ハ其の源
淵に所て仏法の古を其ハ紀きる八中千日女池の源
[illegible]ハ仏法の[illegible]事ハ妖蛇となりて
昇天しけるが其後ハ一の国の雌雄ともに
繪のつなき此池の由来を奇怪の沙汰と解せしかど
縁起なるものなり今ハ上人の縁起を[illegible]
なれども聞えぬ程しるのを毎年彼岸中日男池
ま小[illegible]を備へてもろくの宝物を納める例あり
よろくにこれも男池にしたがふものなり

文化つちのと巳孟陬
東武　十返舎一九誌
(直)

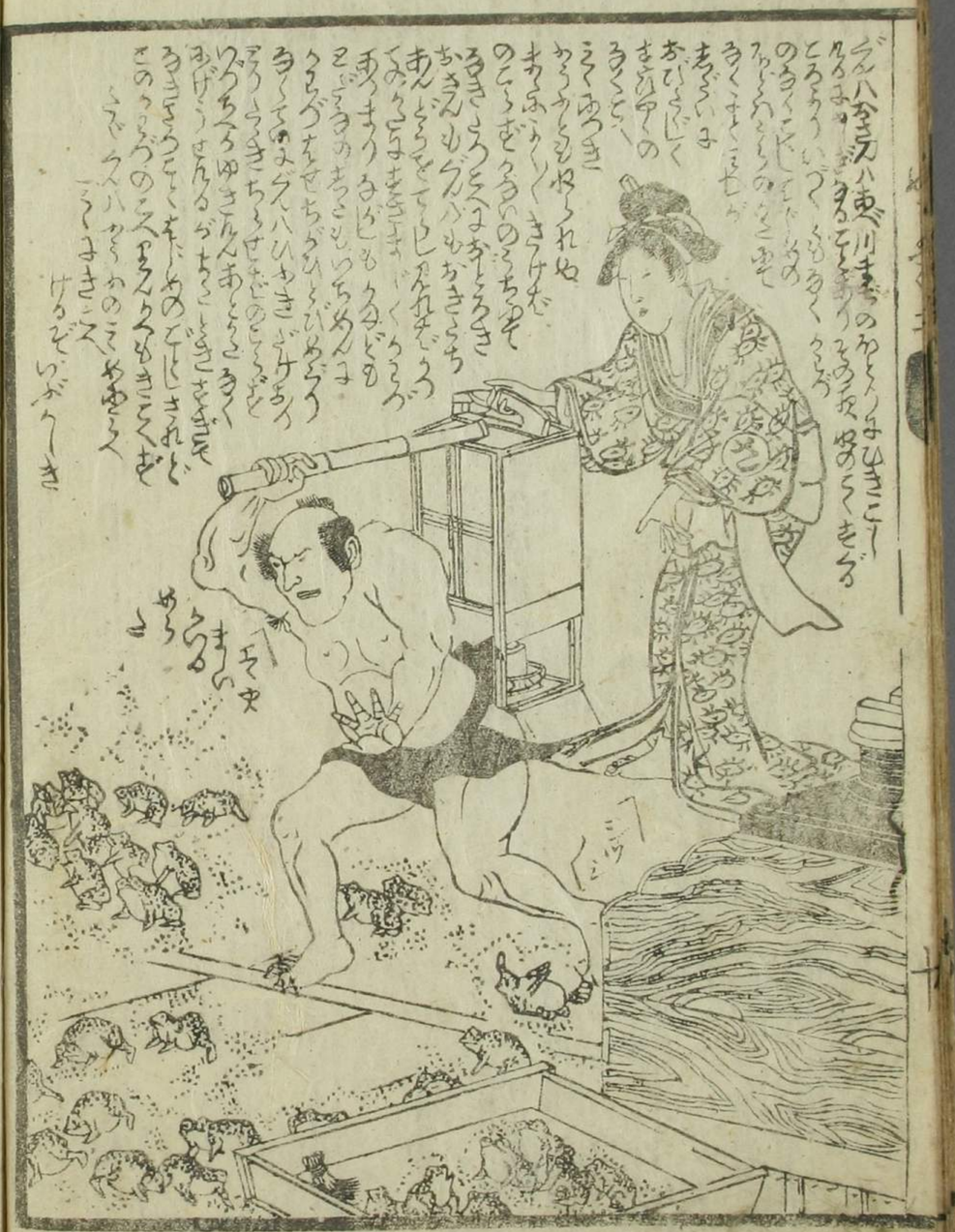
軍
さ
みむ

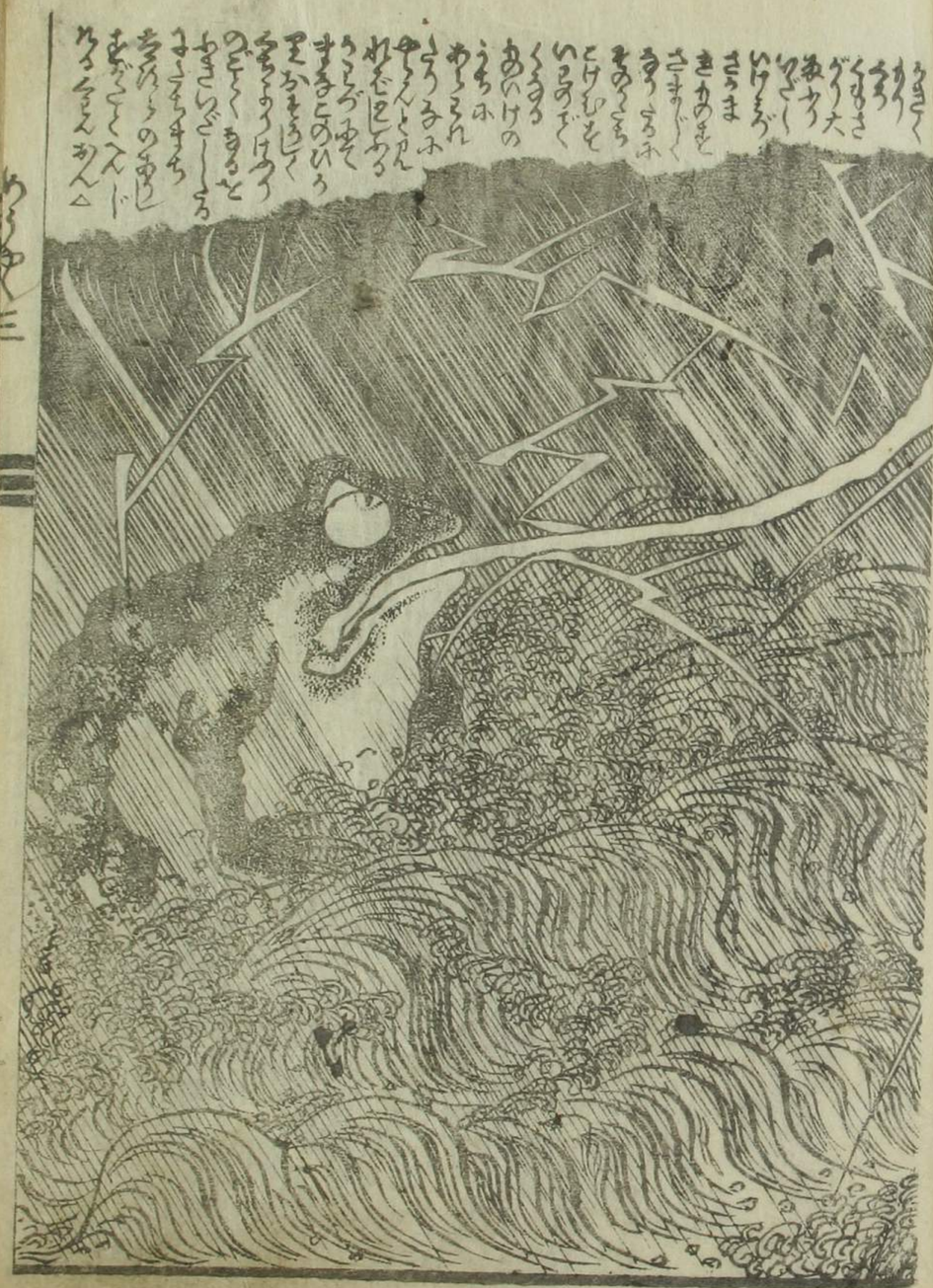
丑
寅
卯

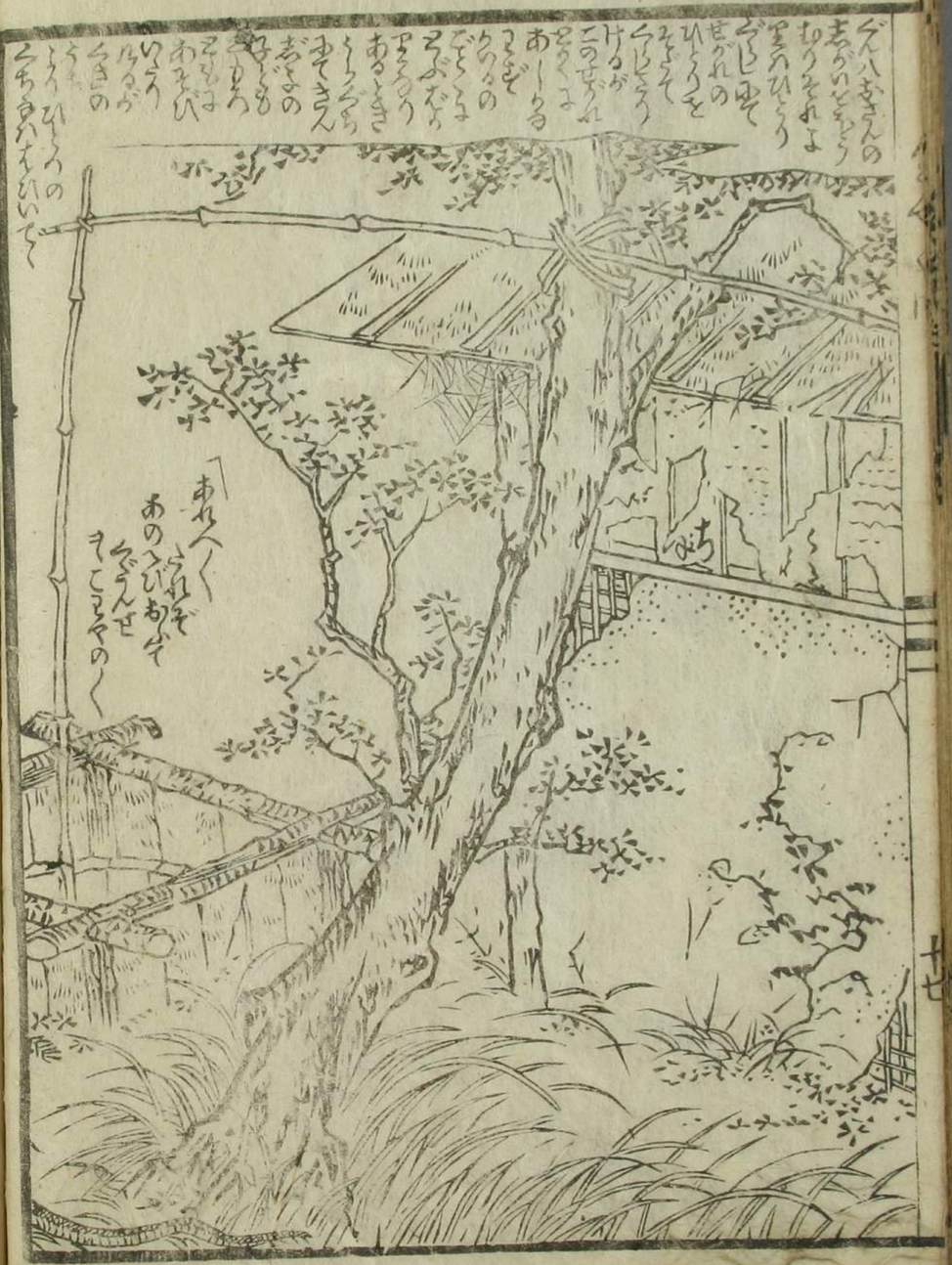


太
さ

軍







五之巻

まんまうつとらずとおうの
もくざいへきびくざん八の
とまうかうなる中へ
そのきこちもぐさ頭
もくざいの中へきさは
いそうろうちぞちらは
ねびりてさらめんし
わさいのこともつてさ
まろうりてかきさきち
めんきてよあうまう
ちぐらもおさまいずね
ゆくぬびひんなちらう
すまるへあるちの吉
てゆへとその郭かびん
まなわれろろざうの
けるげなるそうえまんと
己のきつへ
そりきし
ろうぜう
ちのてと
ろうてえぐら
こわせつけ
られあかぞそ
その吉いきと
ようてろとも
つらうちろの
さしづなうちの
やうせきよう
おそしをゆかされ
かれだものきち
「其おのれすぎ
のしやちい
あのまろて
やらざん
出べし

それよりぐんなあつら
ぐんべつきらへあま
ゆんぞそてそのうちけ
きうつけぐつくん八六この
わとらうびかかくは
ようつそてまんさい
るるつまとてしぐさ
るわきあへ
せきう
む
ぶきを
ぶられども
つのはちのきちぐ
まるどきさきう
さきよろるこそぞ
さんぐはられはける
まとろよろる
せさおくの
むらひてんそうの
みくじきはおひ
ひぞうは
いのちを
そさとをとを
おそるべし
「どあく
そやめ
おそへ
さら

蝦蟆妙藥大尾

於奉命 高野楓 全五冊
十返舍一九作 近刻

十返舍一九著
喜多川式磬画

文化己春新版草紙目錄

本町細五郎 十返舍一九作
生時九郎兵衛 東男連理序 七冊
哥川国貞画

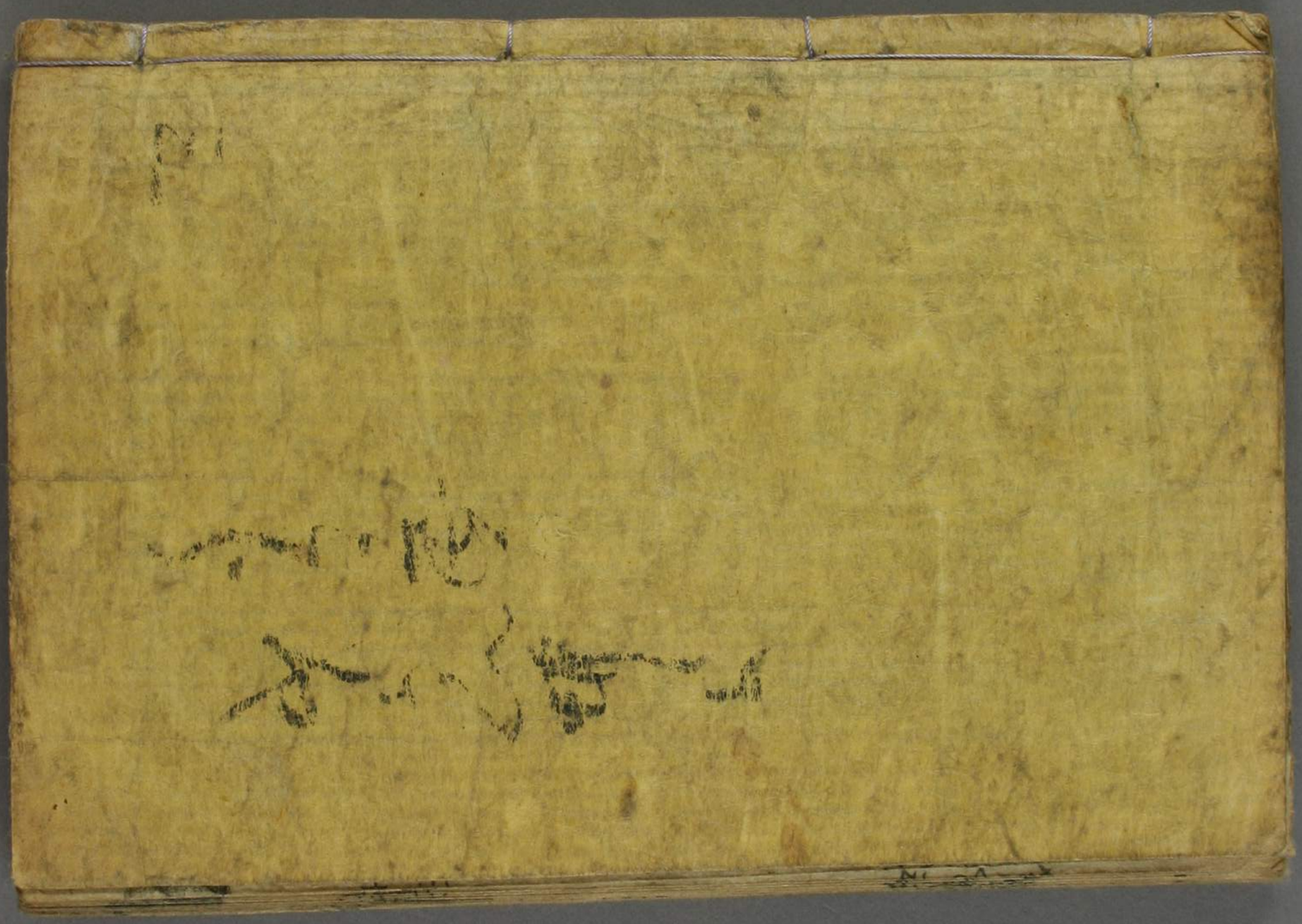
盤岳揃之助 感和亭鬼武作
鬼猿長五郎 葉平塚果実 七冊
喜多川式磬画

十返舍一九作
反雙言孝子記 全八冊
喜多川月麿画

感和亭鬼武作
敵討於年紅 全五冊
北川美九画

佛長九郎 十返舍一九作
鬼太平治 力髪一刺男 三冊
勝川春亭画

感和亭鬼武作
御伽人嶋復讐言 全二冊
北馬画

十返舍一九作
武者順礼捨松噺 上冊
哥川豊廣画

版元 東都通油町 村田屋治郎兵衛版